

木更津市長 渡辺芳邦様

## ゴミの減量化・資源化に関する要望書

私たちの市民生活から、日々排出されるゴミ処理にかかる費用は、年々増えていることから、木更津市では2004年に一部有料化をはかり、ごみ処理費用を市民が一部負担することとなりました。ゴミ有料化導入の際、公民館を中心とした単位や、要請に応じ、市の職員が説明に回っていました。導入直後のゴミは減量した様に聞いています。

しかし、その後は減量とはならず、一人当たりのゴミ処理費用がかさんでいるのが実態です。また、過去14年間で、木更津市への転入者はのべ76000人にもなりました。これは木更津市のごみ分別を始めた人数でもあり、改めて、市民への「木更津市の分別方法」の再徹底が求められるところです。

私たち「きさらづ市民ネットワーク」では、二年間にわたり、上総クリーンシステムやリサイクル工場などの見学や、環境部の方による学習会などを重ねてきました。その結果、分別を徹底することでゴミ処理費用の削減が図れると考えます。

是非、市民力を活かし、市民との協同で、ゴミの減量化・資源化の推進をはかるよう、ここに要望いたします。

### 1. 正しい資源ゴミの分別を知らせる啓発活動

思い込みや勘違いによる資源ごみの分別を少なくすることで、資源ごみの質の向上を図る。

#### A) 自治会などの地域単位だけでなく地域の枠を超えた対象での啓発活動

例) 小中学生やPTA、保育園の保護者等

#### B) 広報やごみ分別ガイドなど紙媒体による間接的だけではなく、直接的な啓発活動

例) 出前講座、ゲーム感覚で覚えられるような工夫(ゴミ分別クイズ)等

#### C) ゴミ袋も啓発グッズと位置づけてデザインを再考する。

例) ゴミ袋に分別マークを記入

#### D) ゴミカレンダーの分別説明をもっとわかりやすいデザインへ再考する

#### E) 小型家電のリサイクルなどの回収の周知

例) 自治会の回覧ではなく、戸別チラシで周知を行う

### 2. 市民参加による減量化・資源化の推進

#### A) ゴミ減量やリサイクルに自主的に取り組んでいる団体・グループ等の活動を紹介するなどの支援を行う。

例) たい肥作り 古着で小物づくり 学校や幼稚園のバザーなどの工夫の紹介等

#### B) リサイクルフェアは、市民参加型でゴミの減量化・資源化などの現状をわかりやすく知らせる場とする。

#### C) 木更津市廃棄物減量等推進審議会に取組結果を報告し、市民の声を聞く機会を積極的に作る。

毎年、市内から発生する廃棄物発生量の見込みや、ごみの減量化・資源化、適正処理を推進するための方策など、基本計画で定める目標の達成に向けた具体的な取り組みの計画を毎年作成しているが、その結果を同審議会に報告し、成果と課題を共有し、ゴミの減量化・資源化の達成が市民に見える活動にする。

### 3. 新規住民へのアプローチ

自治会への加入が減り、ゴミ出しのルールが徹底されにくく、特に新規住民には新たなアプローチで啓発することが必要である。

- A) 転入届を提出して居住する市民への対応  
窓口対応でのゴミ分別ガイド、ゴミカレンダーを配布
- B) 転入届を提出しないで居住する市民への対応  
ゴミカレンダー・ゴミ分別ガイド配布の協力依頼を不動産屋へ積極的に行う。

平成26年4月14日  
きさらづ市民ネットワーク  
代表 金井珠美  
市議会議員 田中紀子